

協働のまちづくり

「住んでいて良かった、これからも住み続けたい」
 と思える“かみふらの”を目指して

最近、「協働のまちづくり」って聞くけど何のこと？という疑問にお答えします。

上富良野町の協働のまちづくりを推進するために、みなさんに取り組んでいただけるように、できるだけ分かりやすくと思って作りました。是非読んでいただき、「協働のまちづくり」の輪が少しずつ上富良野町に広がっていくことを願っています。

上富良野町協働のまちづくり推進委員会

「協働のまちづくり」ってなに？



子ども

最近、協働のまちづくりってよく聞くけど、どういうこと？



お母さん

協働って、町の広報誌を見たら、街角に立って子ども達の安全を見守ったり、道路沿いに花を植えてまちをきれいにしたり、そういうボランティア活動のようなことをいうみたいね。今年から住民会で公園の管理も始めたよね。



お父さん

公園管理は、町から草刈機や管理に必要なものを買うお金が補助されるんだよ。お父さん達は、花壇作りや草刈り、清掃などきめ細やかに公園の管理をしているんだ。

いつもきれいな公園になっているから楽しく遊べるよ。



それとね、お年寄りのみなさんがすごく頼りになるんだ。お父さんなんか草刈機の使い方だとか、花壇の土作りや肥料のやり方とかも教わったりしてね。

お年寄りのみなさん頑張ってるわね。でも、自分が必要とされているってことは本当に大切なことなのよね。やりがいがあるし、いつまでも元気に暮らすことにつながるのよね。



そのとおりだね。こんなふうに、**町民同士が協力**したり、**町民と行政が協力**して地域のいろいろな課題を解決して、**住みやすいまちにしていけることが協働のまちづくり**なんだ。

どうして協働が必要なの？



ところで、どうして協働のまちづくりが必要なの？

その背景の一つに、高齢者の割合が年々高くなってきていることがあるんだ。高齢者だけの世帯や独り暮らしの高齢者は、段々自分達で生活することが大変になるよね。



そういえば隣のおばあちゃんも今は元気だけど、車に乗れなくなったら、買い物も大変になるし、冬の雪かきも大変だよね。昔は、向こう三軒両隣といって、近所のあたたかいお付き合いがあったけど、今は少なくなったよね。

ひとくちメモ

上富良野町の現在の65歳以上の高齢化率は25%で、10年後には、36%になると予想されています。

阪神淡路大震災のときは、隣近所が助け合って多くの人々が救助されたんだ。それは普段から地域でのお付き合いがあったからなんだよ。それと、全国からすごい人数のボランティアが集まって、復興を支援したんだ。



上富良野町も十勝岳の噴火災害があったので、人ごとではないよね。いざというときにみんなが助け合うことができるように普段から地域でのお付き合いが大切ってことなのね。

そうだね。地域のお付き合いを大切にしていれば、いつでも助け合うことができるよね。不審者が出没することもあるって言うけど、そんなときにも注意しあっていれば、安心安全なまちになっていくんだ。



ひとくちメモ

阪神淡路大震災の時は、道路も寸断され救助の車が出動できない状況で、多くの市民は隣近所の人々に助けられたといわれています。これを契機に、神戸市では地域の自立と連携が大切であるという認識が広がり、「自助・共助・公助」による防災のまちづくりが推進されました。また、まちづくりにも協働の重要性が確認され、全国に協働のまちづくりが広がりました。

「自助・共助・公助」とは

自分でできることは自分でする（自助）ことを基本として、自分でできないことは町内会など地域でする（共助）、それでもできないことは行政でする（公助）という考え方。

それと、これまでほとんどのことを国が決めてきたから、日本中どこでも同じような公共サービスをしていたんだ。今は、健康志向や心の豊かさを求める人が増えてきて、町民が行政に求めることが多くなって、このままでは、十分な行政サービスを継続することは難しくなっているんだ。





いろんな地域があるのに日本中どこでも同じようなサービスなのね。それなら私達が考えれば、地域にも、自分達にも合うサービスができるんじゃない？

そうなんだよね。国が持っている情報や財源を都道府県や市町村に移して、**地域のことは地域で決めて責任を持ってやるという地方分権改革**が進められているんだ。

町民と行政が力を合わせれば、地域に合った、自分達の求めているサービスをすることができるし、きめ細かい対応もできるよね。このことも協働のまちづくりが必要な理由のひとつなんだ。



協働したらどうなるの？



町民と行政が協働したらどんな町になっていくの？

町民にはいろんな能力を持った人がいるよね。行政が考えつかないことに気がついたり、きめ細やかな対応をしたり、やりたいことはすぐやれるなど、**行政にはない力**を持っているんだ。



すごいわね。それじゃあ行政はどうなの？

行政は、みんなの意見を聞いてから始めるから、どうしても遅くなるんだ。でもたくさんの情報を持っているし、予算を付けることができるし、いろいろなことに詳しい職員もいるんだ。それで町民と行政がお互いの力を合わせて協働することで、これまでよりきめ細やかな、いいサービスが期待できるんだ。



なるほどね。町民が参加することによって、町民の目線でまちづくりが進められるのだね。

協働することによって行政は、計画するときから町民と一緒に考えてるんだよ。何回も会議を開いて話し合うから時間はかかるかもしれないけど、**町民のアイデアが生かされたり、みんなが納得のいくまちづくり**ができるようになるんだ。



町民は何をするの？



ところで、町民は何をすればいいの？

町内会に加入しているいろいろな行事に参加したり、ボランティア活動などに参加することが始まりかな。参加してみると人と人とのつながりができるし、ふれあうことが楽しくなるよね。それと町の広報誌や防災無線、行政ホームページなどで情報収集することも必要だね。



なるほどね。私ももっとまちづくりに関心を持って参加しなくちゃね。

そうなんだよ。まずは参加することからだね。
地域の課題は、地域で考えて解決するという意識が必要なんだ。



行政は何をするの？



行政はどんなことをするの？

いろいろなことが考えられるよね。

- ・職員は、地域の一員として地域の行事に積極的に参加することや町民の意見にじっくりと耳を傾け、それを実現しようとする意識を持つこと。
- ・町民がまちづくりにもっと参加しやすくなるような方法や制度を考えること。
- ・町民と情報を共有すること。
- ・地域のリーダーやスタッフになる人材を育成するために、講演会や研修を開催すること。
- ・町民が活動しやすいような支援や協働事例を町の広報誌でPRすることなど。



協働についてもっと知りたい方へ…

「協働のまちづくり基本指針」をお渡ししています。また、町の行政ホームページでも見ることができます。<http://www.town.kamifurano.hokkaido.jp/>

担当は、役場1階の『町民生活課自治推進班』です。協働のまちづくりの出前講座も実施しています。お気軽にお問い合わせください。

電話 45-6985 FAX 45-5362 E-mail jichi@town.kamifurano.lg.jp